

＊幸せのじかん＊

読む人の幸せを心に願って作る

喜びの 夕ネまき 新聞

No.563

熱気球の国際大会
〈佐賀市・嘉瀬川河川敷〉

佐賀の秋は、世界各国から100機を超えるバルーンが参加する熱気球の国際大会で盛り上がります。朝焼けの空に色とりどりのバルーンが一斉に舞い上がる光景はまさにファンタジー。国内外から多くのファンが集います。

〈相手に損をさせない〉

「自分が損をしても相手には損をさせずに、感謝を忘れない生き方をしましょう」とダスキンの創業者が語っていました。人として良い生き方とわかっていても、自分自身がそのことを行動に移せているのだろうか。と自問自答し、反省をします。

結果的に損をした時に「他の人が得をしたのだから良かった」と自分自身に言い聞かせていることはあっても、「自分が損をしても」とわかっていて本当に自ら選んで行動に移せているのだろうか。そう思うと、創業者の言葉の重みに対し、まだまだ応えきれていない自分の器の小ささを感じます。

他の人に迷惑をかけることは当然のことですが、日々の忙しさにかまけて自己中心的な考えになり、知らず知らずのうちに、相手に損をさせてしまっていることもあるように思います。

日頃より周りの人に思いやりのある言葉で語り、相手の身になって行動をとることを意識していれば、相手に損をさせずに自分自身の損も損と思わない生き方に繋がります。また、自分に思いもよらない不利なことが起きても「私の成長を手助けしてくれている」と感謝できるのではないのでしょうか。時間と気持ちにゆとりを持ち、うまくいかなくても「損をしたな」と思わず感謝できる生き方をしていきたいと思えます。

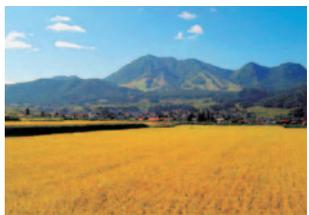
株式会社ダスキン社長

山村輝治



日本は
ひろいな
おいしいな

長野県木島平村 語りで伝え残す 村の記憶



寒暖差がはげしく、水の豊富な木島平は信州ではめずらしい米所



馬曲にあった古民家を昔ながらの材料、構法で再生させた「ふう太の杜の郷の家」

「そうだなあ。あれは昭和10年ごろにこの村に本当にあつた話だよ」。遠い記憶を思い返しながらか話しているかのようになり、ゆっくりと始まった「語り」。柱時計の振りが心地よくリズムを刻みます。ここは、北信州木島平村・馬曲(まぐせ)にある、農村文化を伝える古民家「ふう太の杜の郷の家」。語っているのは数少ない村の語り部・滝沢さん。村の歴史や民話を掘り起こし、管理人の嘉部さ

らと一緒に「語り」という方法で伝え残す活動をしています。「語り」がもつ特別な力
雪深い冬の時期、外で遊ぶことがままならない木島平の子どもたちに、本を届けようと始まった移動図書館。やがて、読み聞かせや紙芝居へと発展していく中でこの活動が生まれました。



囲炉裏とかまど、そして語り。「ふう太の杜の郷の家」では昔ながらの農家の暮らしを体験することができる

長野県木島平村 幸せな食べ物 × 幸せな風景



和算が盛んだつたこの村には、多くの優れた算額が残されている

るということ。今、残さなければ、大切な村の記憶が無くなってしまふと感じました」と、嘉部さん。歴史を残すだけなら文字で十分なはずなのに、嘉部さん達が「語り」にこだわった理由。それは、「語り」を思い出す時、大切な村の歴史とともに、郷土の温もりや村で過ごした豊かな時間も一緒に

「幸せな風景」を紹介してくれた人

「ふう太の杜の郷の家」
管理人
嘉部 美津子さん

嘉部さんは、管理人を務めながら、語り部になる練習を続けているそうです。



キャベツ・なすのおやきの作り方

急斜面が多く冷涼な信州の山間部では、稲作が困難なため、小麦の生産が盛んで、米の代わりに粉を使った料理がよく食べられてきました。その代表がおやき。作り方や中の具は地域や家庭によって、さまざまだそうです。



材料 (各3個・計6個分)

中力粉	200g
水	120~130cc
キャベツ	1/6玉
ニンジン	5cm
丸なす	1個
味噌	大さじ4
砂糖	大さじ2~3
顆粒だし	小さじ1
サラダ油	大さじ1

※味噌によって甘さや塩分が異なるので、砂糖は味見をしながら調整してください。



① 中力粉200gに水120ccを少しずつ注ぎ、耳たぶくらいの柔らかさになるまでしっかりこね、フックをして常温で1時間程度置く。(手を水で濡らしながらこね、水加減を微調整すると良い)



② ①に粘りが出てきたのを確認し、6等分する。1つずつ軽く伸ばし、②を中央に適量のせ、周囲の皮を伸ばしながらすき間なく包み込む。③も同様に包み込む。



③ キャベツとニンジンを手切りにし、蒸し器で15分ほど蒸す。蒸し上がったら水分をしっかり絞り、味噌大さじ2、砂糖大さじ1、顆粒だし小さじ1/2、サラダ油大さじ1/2で和える。



④ 3個ずつ包んだら、サラダ油を引いたフライパンに並べ表裏がきつね色になるまで中火で焼く。こんがり焼けたら、蒸し器に入れ10分ほど蒸してでき上がり。



⑤ 丸なすは2cm程度の輪切りにし、間に切れ目を入れておく。味噌大さじ2、砂糖大さじ1、顆粒だし小さじ1/2、サラダ油大さじ1/2を混ぜ合わせ、なすの切れ目に塗り挟む。

「幸せな食べ物」の作り方を教えてくれた人



おやき名人の山岸 法子さん
「おやきを包むにはコツがあるので、繰り返し作ってください」。

門倉多仁亜の 丁寧暮らし

第四話

モノとの つきあい方

日々の忙しさに流されて、「あなた自身の時間」の大切さを忘れていませんか？
なにげない日常を丁寧暮らしにすることで、人生を有意義に過ごすコツ。シンプルでありながら豊かな暮らしをふりて人気の門倉多仁亜さんと一緒に『丁寧暮らし』について考えてみませんか？

モノが多いと
疲れませんか？

ないところから始める



鹿児島の子の家の広い廊下にあるソファは門倉さんお気に入りの場所

早いもので、今年ももう終盤。年末の慌ただしい時を迎える前に、ご自分が持っているモノについて見直してみませんか？押し入れに眠っているモノ、使わないのに引き出しの主になつているモノ。今の内に整理しておけば、きつと年末のお掃除が楽になります。

日本には、便利そうなモノ、安くて素敵なモノがたくさんあり、つい欲しくなつてしまします。でも、モノが増えるのと、いつ使うのか、どこに収納すべきか考え、管理しなければならぬので、疲れます。さらに限度を超えると、どこに何があるのか分からなくなつて、何をやるにも作業効率が悪くなり、お掃除も大変に。だから私は、モノを持ち過ぎないよう心掛けています。



東京の門倉家にある鍋はこれですべて

東京の家には土鍋がありません。キッチンが狭くて収納場所がないし、鍋料理は普通の鍋でもできるので、不便利も感じません。土鍋は素敵だと思いません。でも、わが家にとつて、どうしても必要なモノではないので、買わないのです。

「鍋は土鍋でするもの」「すきやきはすきやき鍋でするもの」。専用で作られたモノは優れていますから、頻りに鍋料理をするご家庭や、すきやきにこだわりのある方には必要なモノだと思います。でも、「こうでなければならぬ」という思い込みだけで買ってしまうのは、無駄にモノが増えてしまう原因ではないでしょうか。

モノは、ないところから始めて、やはり必要だと思つた時にはじめて吟味して買います。これが私が心掛けているモノを増やさないうことです。

実用品こそ
お気に入りのモノを

必要なモノだけで暮らすと、言うとう面白くないように思われそうですが、そんなことはありません。必要なモノこそ、時間をかけて心から気に入つたモノを選ぶようにすれば、日々豊かな気持ちになれて、愛着もわきます。

合わせてスペースを作つて
いただきました。

どれも実用品ですが、これらが生み出す空間はとても魅力的で、私を幸せな気分にしてくれます。

修理・補修しながら
長くつきあう楽しさ

例えば、野菜を盛るトレイや、コーヒーカートリッジ用の箱など、何でもないような日用品を、お気に入りのホローのトレーやかわいアンティークの缶に入れて、日常が少し楽しくなります。

鹿児島の子の家で使っているラタン椅子は、タイへ行くたびに募らせて買ったモノ。廊下のランプシェードも、「これが似合う家に住みたい」と願つて購入し、ずっと温めてきたモノ。

友人から、日本では修理を受けてもらえなかつたからと譲り受けたドイツ製の壊れた古時計。「Jughans(ユハンズ)」というメーカーのものだったので問い合わせしてみると、本國でなら修理してもらえるとのことでした。もう何十年も前のモノなのに、さすがドイツです。

気に入つたモノを修理・補修しながら長く使い続けることは、モノを大切にするといいだけでなく、自分でアレンジする楽しみもあり、より一層、愛着もわいてきます。

こうやって、身の周りにあるモノ一つひとつに、思い出や物語ができていくことで、モノとのつきあいがどんどん楽しくなり、つきあい方も上手になつていくと思つたのです。

使いやすいように棚を増やしたお気に入りの水屋



果物や野菜を盛っておくお気に入りのホローのトレー



コーヒーカートリッジを入れるアンティークの缶



タイの雑貨店に何年も通つて購入したラタンの椅子



このランプシェードの似合う家に住みたいと願つていたのだそう

Profile

門倉 多仁亜さん (かどくら たにあ)

1966年生まれ。料理研究家。日本人の父とドイツ人の母を持つ。日本、ドイツ、アメリカなど転々と移り住み、帰国後はじめた料理教室が人気に。現在は東京を基盤に月に一度、自宅のある鹿児島へ帰る暮らしを続けている。著書に「ドイツ式心地よい住まいのつくり方」(講談社)などがある。



元気の素

熊本市東区 中村由美子さん

母を見送り、定年を迎え、夫と2人の静かな時間が流れる日々。しかし、外出しないと会話のないことに気づいた。夫とは「あ、うん」で充分だから…。そんな時、お隣に若い家族が引っ越して来られた。小3の女の子2人と年長の男の子。ご主人と夫が同郷というのも何かの縁。

すぐに子どもたちとも親しくなった。運動会、発表会の見学はもちろん、雨天以外は暗くなるまで庭を歩き来して遊ぶ。夕食時の話題も豊富になり、「私たちはまるでストーカー」と笑う。

1日1回会えないと、「遠距離恋愛より辛い」と夫は言う。あと何年遊んでもらえるのかかわからないが、今元気をもらって充実した毎日を過ごさせてくれる3人に、ありがとうの夫婦です。

＊ お隣の子どもたちも、きつと喜んでいますよ。



私の55歳

福島県いわき市 遊佐みどりさん

私の誕生日は1月8日で、今年56歳になりました。ところが、私はこの1年間ずっと間違ってた？勘違いで？なぜか昨年の誕生日で56歳になったと思いいこんでいました。

つい先日、接骨院で治療中に年齢の話になり、そこで初めて実年齢が判明しました。つまり56歳を昨年と今年の2年間やることになったわけなんです。

これまでいろいろな書類や懸賞応募などには、もちろんですが56歳と明記していません。でも、もう55歳と書くことはできません。

私の55歳はどこへ行ってしまったのでしょうか？なんだか得したような、損したような変な気持ちです。

＊ もう一度、56歳が楽しめると思っています…。



茶の花

群馬県安中市 古田いく子さん

娘がまだ小学生の頃のことです。いろいろな物に興味を示し、アリの後を追っていたら学校へ着いたのが3時間目だったとか、本当にハラハラする子どもでした。

例のごとく遅刻。「どうしたの？」と聞くと、お茶の花を見ていたとのことでした。後日、近所の一人暮らしのおばあさんに「お宅の子はやさしいね」と声をかけられました。理由を尋ねると、お茶の花をひとつ手に持って来て、「おばあちゃん、きれいだよ！」と手渡してくれたとのこと。

そのことを娘に言うと、「毎日学校へ行く時おばあちゃんがいつてらっしゃいと声をかけてくれるのが嬉しかった」とか。

いつも遅刻ばかりしている子ですが、人のやさしさがわかる子どもに育ってくれて、少しホッとしました。

＊ 天真爛漫で好奇心旺盛、やさしさも人一倍です。

燈々無尽

機会をつかめ

しあわせ、とは機会をつかむことだ。

私自身、今難題を

もちかけられて困っている。

不幸に違いない。

しかし、これをチャンスに、

今まで苦しみぬいていたことが、

本来の解決を

せまられているのだとも思う。

不幸をはねかえす

チャンスにすることが

しあわせをつかむことだ。

鈴木清一



笑顔

長野県御代田町 柳沢典子さん

寝たきりのお母さんに新鮮な野菜を食べさせたいので少し分けて…と娘さんに言われ、ときどき野菜を届けています。ある日、野菜を届けに行ったところ、ちよつと娘さんが家においてベッドの置いてある部屋の窓を開けました。

ベッドの上で嬉しそうに笑っているお母さんは、幸せいっぱいの笑顔をしていました。窓を開けておくと虫が入るよと言っても、にこにこして「大丈夫、話していつて」と嬉しそうなお母さん。

その自然な笑顔に接して、果たして私は義理の母に何かしてあげたのだろうか、ふと昔の自分を思い出しました。重い病気になって動けなくても、幸せいっぱい笑顔でいられるお母さん。私までも幸せな気分になりました。

＊ 野菜のお返しは、幸せな気分のおすそわけ。



ありがとう

大阪府忠岡町 村上恵子さん

わが家の横に公園があるのですが、ゴミ箱が設置されていないため、犬のフン、空き缶、タバコの吸い殻、ゴミを平気で放置する人たちが気になります。

ある日、いつも通り掃除をしていると、ランドセルを背負っている7歳くらいの女の子が歩み寄って来ました。そして、私のホウキとチリトリを見て「おばちゃん、いつもありがとう」と言いました。

ハツと我に返り、この短い言葉に救われた思いがしました。なにことも必ず誰かが見てくれているのだと胸が熱くなり、そしてとても胸が軽くなった日でした。

こちらこそ、ありがとう！

＊ ありがとうって、本当にうれしい言葉ですね。



心遣い

岡山県津山市 渡邊弘子さん

介護職に就いて1年。精神的にも肉体的にも重労働だと痛感していた矢先、若い女性の看護師さんが入ってきた。「私は動作がゆっくりで、すみません」。謙虚で物腰が柔らかく、話しやすい、感じのいい人という印象を持った。

私が体重測定の手紙を手渡すと、「あの体重計、重くて測るのが大変でしょう」と共感してくれる彼女のひと言に感動。「すみません。利用者さんの部屋の窓を閉め忘れて…」「ごめんなさい。私も忙しくて気にとめなくて」。彼女の低姿勢な物言いに、素直に「ごめんなさい」が言える。

忙しく業務をこなしている自分も、彼女の心遣いに和まされ、利用者さんに対する態度を見直す機会に恵まれた。

＊ 素直に謝ることができるのもステキです。



愛の輪は日本とアジアの地域社会のリーダーを目指す障がいのある若者に、海外での研修活動を行っています。

耳の不自由なアスリートたち。

ろう者のオリンピックである「デフリンピック」は、音による合図を視覚化している以外はオリンピックとすべて同じルール。選手同士はアイコンタクトやジェスチャー、手話でコミュニケーションを図ります。もし音が聞こえない状態でスポーツをしたら…。飛んでくるボールの気配を感じることができないし、チームメイトの呼ぶ声も聞こえません。彼らはそんな過酷な状況でもエネルギーギッシュな姿を見せています。



このコーナーについてはダスキン愛の輪基金まで。

☎ 06-6821-5270 http://www.ainowa.jp/

あなたのお便りや写真を
お寄せください。

みなさまからお寄せいただいた
お話をもとに新聞をつくってまいります。
どうぞ、あなたが体験したうれしかったこと、誰かに聞いて
もらいたいことなど、身近な話題をお寄せください。

送り先

〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33
株式会社ダスキン広報部
ダスキン「喜びのタネまき新聞」編集室
e-mail: koho4@mail.duskin.co.jp

投稿には、名前、年齢、職業、住所、電話番号、
現在ご利用のダスキンの店名をお忘れなく。
紙面やホームページでご紹介させていただいた
原稿や写真にはお礼をさせていただきます。

私の
弟です！



北海道函館市
浅利絢子さん

笑いが
止まらな～い



大阪市平野区
山本剛史さん

秋の草花と
一緒に
ハイ、ポーズ！



群馬県千代田町
田口星人さん

みてもらお！

見てうれし、見せてうれし。
あなたのお気に入りの1枚を送ってください。

9つ違いの
仲良し兄妹



愛知県岡崎市
大河内美保さん

はじめての
寝返り、
大成功！



東京都八王子市
桐越麻美さん

No.419からのバックナンバーが
下記のアドレスからご覧になれます。

<http://www.duskin.co.jp/tanemaki/>



ダスキンがあなたにお届けする
便利でおトクな
使える情報サイトです。

アクセスはコチラから

dduet

<https://dduet.duskin.jp/>



この新聞をお届けしているのは

株式会社 **ダスキン**

発行・編集：広報部 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33

【お客様の個人情報の取り扱いについて】
お客様の個人情報は商品のお届けや回収、サービスの提供に利用させていただきます。また、後日商品やサービスのご案内をさせていただく場合があります。なお、お預かりした個人情報はダスキングループと加盟店の範囲内で利用させていただきます。配送業務等で個人情報を外部企業に委託する場合は、弊社の厳正な管理の下で実施します。
個人情報に関するお問い合わせや、ご自身の個人情報の開示・訂正・利用停止については、下記ダスキンコールセンターまでご連絡ください。

■ダスキンコールセンター

0120-100100 www.duskin.co.jp